

まちづくり協議会を核とした協働によるまちづくり



六郷まちづくり協議会

はじめに

協働とは・・・

変化する社会状況の中、さまざまな地域の課題を解決していくには、自治会や他の地元で活躍する団体と、六郷まちづくり協議会（以下「まち協」と言う）とが両輪となって役割分担やネットワーク化を図っていく必要があります
つまり、これが協働です。

協働とは、一般的には、「市民、市民活動団体、NPO、企業、行政といった様々な主体が信頼関係で結ばれ、それぞれの特性を活かしながら、共通の課題解決や目標達成のため、協力して取り組むこと」とされていると認識されていますが、現在では、まち協やNPO法人など多様な団体により各地区で様々な地域づくり活動が展開されています。

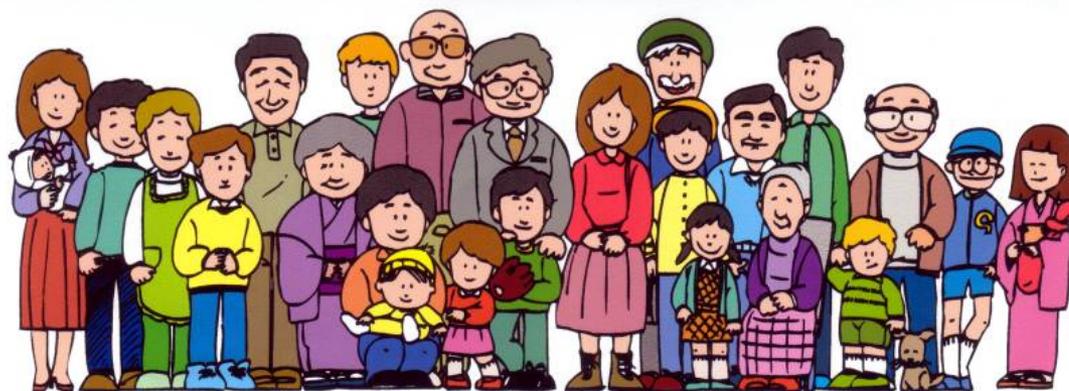


なぜ協働が必要なのか

①市民活動の活性化

なぜ、協働が必要とされているのか、まず挙げられるのは、

- ①市民活動の活性化です。平成7年に発生した阪神淡路大震災や平成10年に制定された特定非営利活動法などを受け、自分たちでできることは自分たちで解決又は改善していこうと率先して行動する市民が増えているということです。

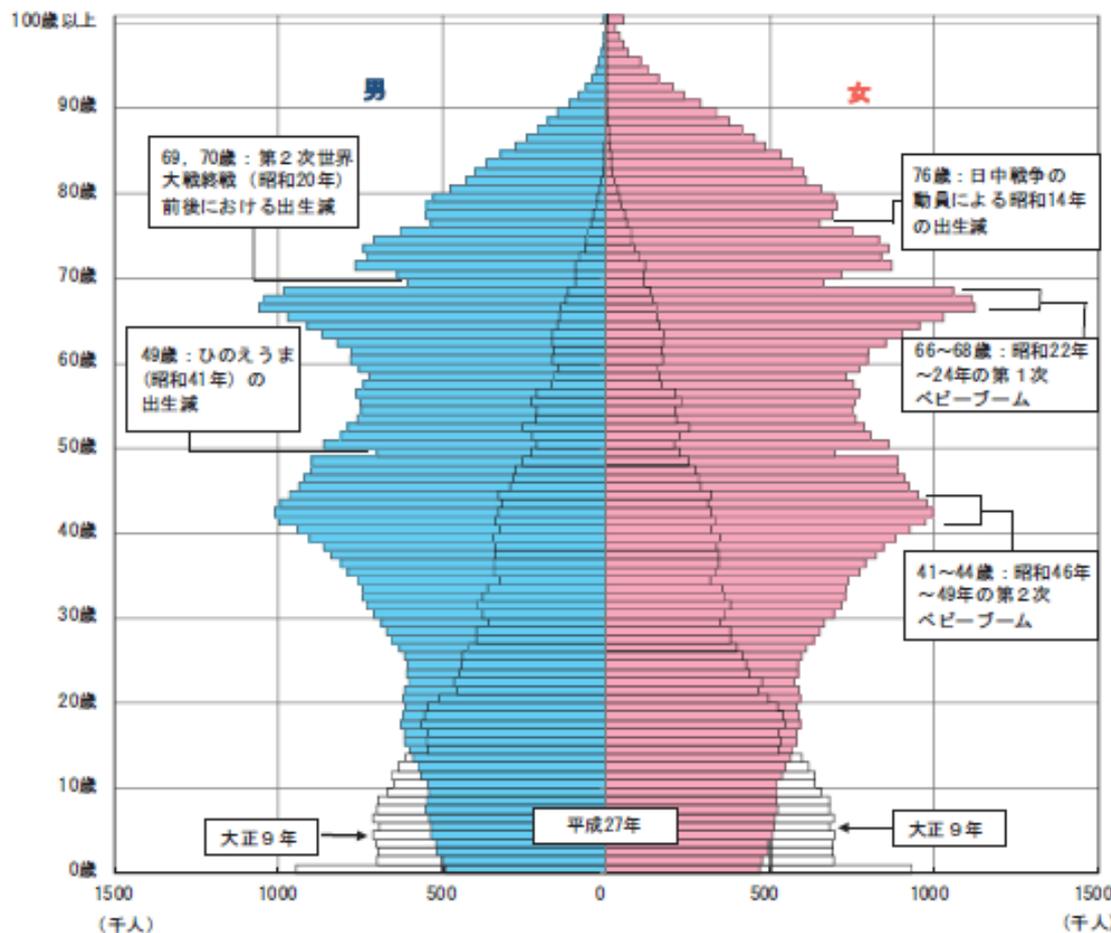


なぜ協働が必要なのか

② 少子高齢化の進展

平成27年に実施した国勢調査の結果、日本の人口は1億2709万4745人で平成22年と比べると96万2607人の減少。大正9年（1920年）の開始という、100年近い国勢調査の歴史上初めて日本の人口が減少しました。

人口ピラミッド（大正9年、平成27年）



A 大正9年に比べて、平成27年は60歳代後半や40歳代前半の人口が多く、15歳未満の人口が少ない

◆ 大正9年に比べて、平成27年は総人口が多い

出典：総務省HP

なぜ協働が必要なのか

②少子高齢化の進展

全国的、また、六郷地区においても、年齢区分で、65歳以上が総人口の4人に1人を超えています。

年次	15歳未満	15～64歳	65歳以上	合計	65歳以上 構成割合	年齢別高齢者人口			単位:人
						65～69歳	70～74歳	75歳以上	
昭和60年	9,273	26,235	5,275	40,783	12.9%	1,631	1,479	2,165	
平成2年	8,928	28,529	6,301	43,758	14.4%	2,064	1,535	2,702	
平成7年	8,308	30,364	7,662	46,334	16.5%	2,541	1,960	3,161	
平成12年	7,489	30,875	8,669	47,033	18.4%	2,421	2,383	3,865	
平成17年	7,010	31,007	9,457	47,474	19.9%	2,363	2,253	4,841	
平成22年	6,790	29,800	10,298	46,888	22.0%	2,543	2,248	5,507	
平成27年	6,755	28,176	11,682	46,613	25.1%	3,532	2,399	5,751	

※年齢不詳は含まれていない。

資料:国勢調査(各年10月1日現在)

なぜ協働が必要なのか

③行政の現状

このように社会構造が大きく変化し、その変化に伴い住民のニーズが多様化、複雑化するなかで、行政も住民のニーズに的確に対応していくことが求められますが、全ての課題を行政だけに頼ると、地域ごとの状況に応じて解決することが難しくなる結果、無駄も多くなり、財政的に立ち行かなくなってしまうことが考えられます



なぜ協働が必要なのか

④地域コミュニティへの期待

このような社会情勢の中、住みよい地域社会を実現するためには、身近な地域の中で生活課題等の解決に取り組むことができる社会を目指していくことが重要となっており、その担い手として、地域社会を構成する人々の力に、これまで以上に期待が寄せられております。



まちづくり協議会

この期待に応えるために、六郷地区においても、まち協を平成21年に設立して様々な地域づくり活動を展開して来ました。



まちづくり協議会の目的

<目的>

- まち協は、地域を良くしようという人達が活躍できる場として、自分の力を活かし、自治会やその他の団体と連携協力して地域の課題を解決していくものとしています。

地域の課題・・・今までは自治会長に任せきり

- これまで、行政からの依頼や地域課題への対応は、自治会にお任せしていましたが、これからは、地域に暮らす人々や色々な団体が集まって、地域の課題について話し合う機会を持ち、地域の課題を解決していこうというのがまち協です。

自治会とまちづくり協議会

例えば…

地区の体育祭

スポーツ大会

フェスタ

…など

自治会では、まち協設立以前、地域住民の交流や親睦を図るための活動が展開されてきましたが、これらも含めまち協活動として引き継ぎを行いました。

例えば、地区の体育祭、トリムバレーといったスポーツ大会、地区センターを会場とした地区センターまつりの「フェスタ」など、これらの地区全体の大きなイベントについては、地区自治会が中心となって開催していました。

ようするに、地区内の自治会長が集まって、イベントの企画から準備、当日の運営から片付けまで行っていました

自治会とまちづくり協議会

自治会長、自治会役員の役割

- 自治会長や自治会の役員の皆様には、自分達の自治会の中をまとめるという重要な任務があります。
- 自治会の仕事は、行政からの依頼をはじめ、自分達の生活に直結する問題への対応が多く、そのほとんどを自治会長や自治会役員で対応しています。
- それに加えて、さらに地区自治会としての仕事がありますので、自治会長の負担はとて大きくなっていました。

自治会とまちづくり協議会

まち協ボランティアの役割

- これまで地区自治会が中心となって実施していた事業の一部、例えば体育祭やフェスタといった、地区内の親睦や交流を図るような事業をまち協に引き継ぎ、自治会の役員だけでなく、もう少し多くの人たちに、地域づくり活動における役割を担ってもらうこととしました。
- 自治会もまち協も、自分達の住んでいる地区を良くしたいという思いは同じだと思います。
- また、その地区に住んでいる人達も同じですから、自治会とまち協が役割分担をしながら、お互いの強みを活かして「協働」することが大事だと思います。

地域を良くしたい思いは同じ

自治会とまちづくり協議会が お互いの強みを活かして協働



- 「協働」とは、歯車のようなイメージとなります。歯車一つ一つが個人や団体であり、歯車の大きさ、形、速さはバラバラですが、それぞれの得意なことにつながり、組み合わせることで、「地域づくり活動」という機械が動きます。
- 必要なときに必要な力や能力を出し合って、1つのことを協力して進める。
- それが「協働」です。

まちづくり協議会の活動

イベント型

仲良く・楽しく暮らす
地域活動が活発化

課題発見型

地域の課題を解決
市民満足度の向上

自治型・
まちづくり型

「住んでよかった」
「住み続けたい」
と思われるまちの実現

まち協は、人と人を結びつける組織

- 地域の人材を地域で活かす。
- 個人のネットワークを地域に活かす。
- 外部の人にも地区のために汗をかいてもらう。
- このように、まち協の活動に多くの人達が関わることで、地域のつながりが強まり、「市民力」が強まることとなります。
- そして、市民力の向上は、地域力と減災力の向上につながっていきますので、まち協は六郷地区さらに菊川市が発展していくための切り札であると考えています。

まち協は、六郷地区発展の切り札

- しかし、まち協が、様々な地域づくり活動を展開していくためには、やはり自治会の皆さん、住民の皆さんのご理解とご協力が不可欠でありますので、今年度も、多くの仲間を増やすように努力していきます。

ご清聴いただきましてありがとうございました

六郷まちづくり協議会